

令和7年度第2回刈谷市学校給食センター運営委員会 議事録

日 時：令和8年1月9日（金曜日）14時30分～15時20分

場 所：刈谷市役所 701会議室

出席者

委 員 雁が音中学校長、富士松北小学校長、富士松東小学校長、小垣江小学校長、小垣江東小学校長、朝日小学校長、富士松北幼稚園長、井ヶ谷幼稚園長、小垣江幼稚園長、依佐美中学校PTA代表、富士松北小学校PTA代表、小垣江小学校PTA代表、小垣江東小学校PTA代表、朝日小学校PTA代表、子ども未来サポーターズ会長、子ども未来サポーターズ委員、刈谷医師会代表、刈谷市歯科医師会代表、刈谷市薬剤師会代表
事務局 教育長、教育部長、教育総務課長、学校給食センター所長、学校給食センター所長代理、主査1名、栄養教諭2名

欠席者：衣浦東部保健所長、依佐美中学校長

教育長あいさつ

1 議題

(1) 令和8年度 学校給食実施計画書（案）について

(2) 令和8年度 幼稚園給食実施計画書（案）について

上記の議題（1）と議題（2）は関連性が高いため一括協議とする。

(1) 令和8年度 学校給食実施計画書（案）について

①栄養バランスのとれた安全な給食の提供について

学校給食摂取基準は、国が定めた学校給食実施基準にある学校給食摂取基準に合わせたものになる。特別支援学校は、障害の種類と程度、身体活動レベルも様々なので、この表を基準としつつ弾力的に運用する。

主食は週4回を米飯、水曜日にパンあるいは麺を実施する。

令和8年度の小・中学校の給食実施回数は184回。特別支援学校は182回を予定している。小学校と特別支援学校小学部の新1年生の開始は、1週間遅れての4月21日にスタートする予定である。

②アレルギー対応給食について

小・中学校は今年度と同様に鶏卵と飲用牛乳の対応をする。

③食に関する指導について、④衛生管理、⑤給食に関する情報提供、⑥学校、

家庭との連携については今年度と同様に実施する予定である。

⑦愛知県立刈谷高等学校附属中学校への給食提供

本市給食センターから給食を提供する。

(2) 令和8年度 幼児園給食実施計画書(案)について

①栄養バランスのとれた安全な給食の提供について

小・中学校と同様に国が定めた「特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食実施基準」の幼稚部に該当するところに基づいて実施する。

摂取基準は、国の基準に合わせたものになる。

主食は、小・中学校と同様に実施する。

令和8年度の給食実施回数は188回を予定している。3歳児の開始は、1か月遅れての5月8日にスタートする予定である。

②アレルギー対応給食について

今年度と同様に飲用牛乳の対応をする。

③衛生管理と④その他は、今年度と同様に実施する予定である。また、夏休み期間中も給食を提供する。

各議題に対する質問・意見については無く、学校給食実施計画書(案)及び幼児園給食実施計画書(案)は承認された。

(3) その他

・学校給食費の抜本的な負担軽減

令和8年4月から国による公立小学校の学校給食費の抜本的な負担軽減、「いわゆる給食費無償化」が実施されることについて、国からの正式通知を待っている状況であるが、国と県の負担により、市町村に対して、公立小学校の児童1人当たり月額5,200円を基準とする交付金が交付され、交付金を超える食材費がある場合は、自治体が負担するか、保護者にお願いするかのいずれかとする仕組みとなることを説明した。

本市においては、小学校、中学校、幼児園いずれにおいても実際の食材費と保護者負担額の差額を市が負担することにより保護者負担額を据え置いており、来年度についても食材費の上昇分に対する市の負担を拡充して、小学校につい

では無償とするか検討中であり、中学校と幼稚園については保護者負担額を据え置きとする予定である旨を説明した。

- ・牛乳パックの形状変更

牛乳パックの形状が、令和8年度2学期から屋根型形状の紙パックに変更される予定であることを説明した。プラスチックごみの削減を目的とした変更であり、ストローを使わず、容器を手で開いて直接口をつけて飲むことを前提とした製品である。ただし、幼稚園においては引き続きストローを使うことを想定している。

すでに導入済の自治体では、低学年の児童もすぐに対応して上手に飲むことが出来ているとの報告を聞いている。

- ・調理委託業者の選定

第一学校給食センターの調理委託について、来年度7月末に(株)魚国総本社名古屋本部との契約が満了となることから、プロポーザルによる業者選定を進める旨を説明した。2月以降に事業者の募集、書類選考、プレゼンテーションを順次行い、5月頃に委託事業者を決定するスケジュールを説明した。

【給食全般に関する質疑応答】

○牛乳パックの形状変更について

Q：牛乳パックの形状変更後、片付け方はどうなりますか。

A：基本的に牛乳パックは畳んで捨てる運用となります。ただし、幼稚園児には難しいことが予想されるため、畳まずそのまま捨てる方法も検討しています。

Q：形状変更後の牛乳パックはどのように開ければよいですか。

A：牛乳パックに「プッシュ」というマークがあり、その部分を押すと簡単に手で飲み口を開けることができます。他自治体の事例では、低学年の児童もすぐに使い方に慣れるそうです。

Q：牛乳パックに口を直接つけて飲むのは行儀が悪いと感じる人もいないでしょうか。

A：給食では、直接牛乳パックから飲むことを基本としますが、やむを得ない

場合はストローを使用することも可能です。家庭ではコップに移して飲むなど、場面に応じて使い分けていただければと思います。

Q：牛乳パックの形状が変わると運搬や配膳の方法も変わりますか。

A：内容量は200mlで変わりませんが、ケースの形状や積み重ね方が変わるため、現地確認を行い、配送や運搬がスムーズにできるよう対応していきます。

○給食運営への感謝と献立の工夫について

Q：始業式翌日からの給食提供や栄養バランスの取れた献立表が非常に助かっています。感謝を伝えたいです。献立表は長期休暇中にも参考になります。

A：ありがとうございます。限られた予算の中で、子どもたちが安心して食べられる給食を提供できるよう努めています。こうしたお声が大変励みになります。

Q：兄弟で異なる校種（例：兄が中学校、弟が幼稚園）に通っていると、同じ食材でも「噛む力」に合わせて、調理法（例：フライとフリッター）を変えていることに気づき、細やかな配慮に驚きました。

A：子どもたちの食べる力に合わせ、料理や食材の切り方などを工夫しています。そのことに気づいていただけることが、とてもありがたいです。今後も工夫を重ねていきます。

○残食の削減と食育について

Q：学校によって残食量に差があると聞きます。改善策やITを活用した取り組みはありますか。

A：学校ごとに残食量の差はあります。その改善に向けて「リクエスト献立」など好まれるメニューを取り入れたり、児童会が主体となる「完食キャンペーン」を実施して、楽しみながら取り組めるよう工夫しています。さらに栄養教諭による食育指導により、子どもたちの意識が変わり残食が減少する傾向もみられています。調理自体は、大きな釜を扱う手作業ですが、統計調査や残食量の集計には、AIやITを活用できる余地があると思います。

○食物アレルギーについて

Q：過去数年間で、食物アレルギーによるアナフィラキシーショックなどの事例はありましたか。

A：はい、発症した事例があります。学校現場では、エピペンを使用するなど適切な対応を行ったとの報告を受けています。今後も学校、給食センター、

保護者が連携し、食物アレルギーへの対策に細心の注意を払って取り組んでまいります。